

## C | O | N | T | E | N | T | S |

【トピックス】「賃金事情」コラム

- 【1】 非常事態宣言
- 【2】 職場を考える(56) 【現場の知恵】
- 【3】 生き生き施設づくり(47) 【感染対策3】
- 【4】 信頼のある職場(56) 【風を求めて】
- 【5】 少年硬式野球チームのコーチと目標管理(66) 【出来ること】
- 【6】 お眠りする野菜

MBO実践支援センターのメールマガジンをお届けします(このメールマガジンは、MBO実践支援センターのメンバーが面識を得た皆さまに、近況報告のつもりで1回/2カ月のペースで送らせていただいています)。ご笑覧いただければ幸いです。

中嶋 哲夫

【トピックス】

- (1) 「賃金事情」No. 2806(2020.5.20発行)のコラム「人事も歩けば」に『菜園のミツバチ』が掲載されました。

### 【1】 非常事態宣言

メルマガの前号の発行は、新型コロナに対する警戒が最も強かった時期でした。たった2ヵ月で、事態は大きく変わりました。非常事態宣言が解除され、日常生活を取り戻す作業が始まっています。「スペイン風邪」(速水融)に書かれていた「風のようにやってきて、風のように去る」という表現がピッタリ。「ペスト」(デフォー)にも似た表現がありました。緊張感を解くことができるうれしさと、拍子抜けした気持ちが同居しています。

もっとも、第2波への警戒を怠ることはできません。ウィルスも、今はお昼寝のようなものでしょう。どこかに潜んで、次の活動機会を待っているのでしょう。スペイン風邪の第2波は、感染力は弱いものの死亡率が高いウィルスに変わったそうです。せっかく身につけた手洗いやマスクの習慣を失わないようにしておきたいと思っています。

中嶋

### 【2】 職場を考える(56)

#### 【 現場の知恵 】

日本の職場は、改善という名で、いくつものイノベーションを成し遂げてきました。整理整頓のための「影絵」、ファイルを元の場所に置くための「背表紙への斜線」、通行者を区分する「床面の塗装」、多能化促進のための「仕事表」「スキル表」、回転機器のボタンに触れないための「カバー」等々。誰が最初に考えたのかは分かりませんが、世界で共有されるノウハウが生み出されています。最初に考えた人が想定できなかったほど、世のなかに大きな影響を与えたわけです。

例えば、仕事表は多能化のためのOJTを計画することが主たる目的ですが、その副次効果が大きいでしょう。なぜなら、それが、仕事配分の公正さを担保する仕組みになるからです。ある人がどの工程を担当できるのかが、技能の一覧として示されているわけです。上司が恣意的な仕事配分を行っていないことが一目瞭然です。働く人が最も重要視する仕事を透明なものにする道具としても、仕事表が機能しています。

話が突然変わりますが、飛沫防止の目的で使われるプラダンやビニールのカーテン

も、現場の知恵そのものでしょう。何処で、誰が使い始めたのは、知りません。4月の中旬には、コンビニに普及していました。その後もあっという間に、「あってあたりまえ」の機材になったようです。現場の知恵は、目の前のニーズに対応するが故に具体的であり、即効性があります。ニーズに一般性があれば、アイデアは普遍的に役立ちます。「改善ではなく革新」という言い方もありますが、「改善が改革に化ける」ことを意識しておきたいところです。

中嶋

---

### 【3】生き生き施設づくり(47)

---

#### 【 感染症対策3 】

いつもご紹介している東京都内の介護施設。緊急事態宣言の4月5日には、通所サービスの利用者が二三割減少しましたが、入居型はいつも通りの介護を提供することができ、今日(6月15日)まで、職員・利用者で新型コロナウイルスの感染は確認されていません。この間、職員は通常の業務に加えて、考えられる感染対策を徹底することはもちろん、利用者やご家族にもご協力をいただく事項の周知や、地元の方々や外部ボランティアに来所をご遠慮いただくなど細かく対策を行いました。結果、例年この時期に起こりうるカゼなどで体調を崩す方も減りました。先回も、予防のカギを握るのは、当たり前のことをきっちりやるという個々の行動に加えて、職員間で情報共有を密にして全員で連携して予防の取り組みを進める組織の意識と行動であり、総力戦で長期戦に向き合う組織の意思と能力が試される、と記しました。しかし、この間に職員一人ひとりに仕事だけに限らず、私生活でも蓄積していった身体的・精神的負担はこれからも引き続きます。季節は蒸し暑い夏を迎えます。管理者は、部下が休みを取りやすくするとか、利用者の受け入れに余裕を持たせるなど、さらなる長期戦や第二波に備えた、メンバーの健康・安全対策を目下の急務として協議を続けています。

パートナー・三宅敬司

---

### 【4】信頼のある職場(56)

---

#### 【 風をもとめて 】

ときには職場を出て自然豊かな郊外の施設に出かけ、まとまった時間をとってみんなで知恵を出そうじゃないかと、ミーティングを進めるものの、途中で発想が難渋したり、ディスカッションが堂々めぐりする時間帯がおとずれます。そんな時に、外の新鮮な空気にあたって気分転換すると、いい発想が生まれた経験をした方も多いことでしょう。

知的な活動の親玉であるわれわれの脳は酸素の大食家だそうです。空気がよどんでくると、脳はぐったりしてその働きをにぶらせる。だからわれわれは動いて風にあたりたり、風を呼び込むために窓を開けたりします。賢人の散歩などはそのための典型的な行為かもしれません。新鮮な酸素を運んでくる「風」を、知的な活動をするための情報や会話やときには雑談にたとえるならば、3月4月に外出自粛で在宅勤務が始まったころは、静かに自分の空間で物事を考えるのもわるくないと思えたのが、5月になるとその「風」が流れないことから活動の量と質がだんだん冴えないものになってくる感じを強くいただきました。

6月に入り、外に出る機会は少しずつ回復していますが、以前のようなではありません。人と会って興味のおもむくままに雑談や対話をする以外にも、風を呼び込むワザを見つけないかと思うこのごろです。いい仕事をするための自分なりの環境づくりは、これからもいろいろと新しい工夫をしていきたいと思っています。

パートナー・三宅敬司

【出来ること】

世の中、Withコロナ、Afterコロナの話題が尽きず、まだまだ、コロナ一色ではありませんが、6月1日よりリトルリーグの活動も様々な条件はあるが、短時間の練習は出来る環境になって参りました。

今週末には日本のプロ野球も開幕を迎えることとなり、春の選抜甲子園大会への出場を決めていた高校が甲子園球場にて記念試合を行うなどの計画も発表されて、大人達の子供達に対する“出来ること”のアイデアが徐々に出てきました。

リトルリーグも今年は世界大会、全日本選手権ともに中止が決まり、最上級生の締めくくりが出来ない状況に“出来ること”は無いのか？と我がリーグも模索しております。

幸い、我がリーグは地主さまの好意で専用球場を持っていることで、自前の大会を開催することは可能です。規模は大きくはないが、東京・千葉・神奈川・埼玉・茨城の5つの県から希望するチームを集めて独自の大会を実施するべく、安全面、とりわけ『感染リスク』を低減させる為にどのようなことをすべきか？を日々考えております。

3密を避ける為には・・・、朝、昼の検温・・・、手洗いやうがい・・・、子供達や審判のお昼ご飯は・・・、表彰式は・・・など今までであれば考えなくても良い、或いは答えは決まっていたことが、数多くあることに気づかされます。「ああ、なんて以前は平和だったんだろう・・・」と頭をよぎりますが、それでは前進できません。

明確な答えが無い中で、【実施する！】そのために“出来ること”を皆でLINEを使ったリモート会議で前に前に進めようとしております。最初はLINEのリモート会議ですら、抵抗がありましたが、今では全く問題ありません！

意図せず環境が劇的に変わってしまい、「以前のように」出来なくなったことを嘆くよりも、「これから」“出来ること”に目を向けて、皆が結束することでアイデアは数々出てくるはず、「やらない」「やれない」理由を考える方がはるかに楽ではありますが、“出来ること”の方が道は険しくとも、価値ある変化が起きるはずと信じて。

皆さまの組織でも、「以前のように」に拘り前進出来ない方はいませんか？  
先ずは“出来ること”を皆で数多く列挙して、新しい目標設定に照準を向けませんか？

イケメンコーチ

【6】お眠りする野菜

非常事態宣言は解除されましたが、筆者の「自粛生活」は続いています。大学の授業は遠隔授業。企業の研修が再開されても半分くらいはリモート研修。必然的に在宅時間が長くなり、畑の手入れが丁寧になっています。

久しぶりに落花生を植えてみました。ようやく、少しだけ成長し、黄色い小さな花をつけています。2枚の葉が側軸に何枚もついています。タテよりも横に広がった感じで育っています。現在、半径が20cmくらい。まだまだこれからです。

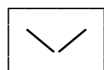
夕方になると、落花生の葉は、両掌を合わせるかのように、葉をとじます。夜間の蒸散を防止するのでしょうか。「また働くの？無理するなよ。おやすみなさい」と言ってくれているような優しい感じの手の合わせ方です。花は、受精すれば土中に潜り込み、結実します。葉は朝になれば開き、夕方には閉じます。頑張る感じがまったくしません。落花生と一緒に手を合わせたくなくなります。

中嶋

◆◇MBO(目標管理)実践支援センターの考え方

MBO(目標管理)実践支援センターはMBO(目標管理)を組織内で展開するためのノウハウを蓄積し、人事担当者に提供するためのセンターです。営利事業と非営利事業を組み合わせてこの機能をはたしていくつもりです。

<http://www.mbo-mcp.com/>



編集・発行／MBO(目標管理)実践支援センター  
代表／中嶋哲夫 <http://www.mbo-mcp.com/>  
事務局／(株)MC&P TEL:06-4706-3311

- 最後までお読みいただきましてありがとうございます。  
このメールマガジンは、センターの講師陣が出会った方々に感謝の気持ちを込めて送らせていただいています。  
もし、ご関心のない場合には、ご面倒ですが解除の手続きをお願い申し上げます。
- このメルマガを読んでもらいたいお知り合いを是非ご紹介ください。
- 投稿または配信停止を希望される場合は、  
下記「お問い合わせフォーム」にて、「MBO投稿」または「MBOメルマガ配信停止希望」とご記入の上、送信願います。  
<https://secure.mcp.co.jp/contact.html>
- このメールアドレスは配信専用となっております。  
返信いただいても対応はいたしかねますのでご了承ください。  
ご連絡は下記のアドレスまでお願いいたします。  
[mbodoor@mbo.mcp.co.jp](mailto:mbodoor@mbo.mcp.co.jp)

※本メールの無断転載・複製を禁じます。